

平成 31年3月

## 三ツ星紀子 学位論文審査要旨

主 査 萩 野 浩  
副主査 吉 岡 伸 一  
同 浦 上 克 哉

### 主論文

How the post-fracture rehabilitation choice affects brain function in older people?

(高齢者における骨折後のリハビリテーションの選択は脳機能にどのように影響するか?)

(著者：三ツ星紀子、河月稔、持田茂、森本兼人、浦上克哉)

平成31年 Dementia and Geriatric Cognitive Disorders Extra 掲載予定

### 参考論文

1. Post-fracture rehabilitation effects on brain function in older people

(高齢者の脳機能における骨折後のリハビリテーションの効果)

(著者：三ツ星紀子、河月稔、小林洋平、田中美枝子、朝田隆、森本兼人、浦上克哉)

平成31年 Yonago Acta Medica 掲載予定

## 審査結果の要旨

本研究は転倒により骨折をした高齢者がリハビリテーションの違いによって、脳機能と抗酸化にどのような差が生じるかについて、Physical Therapy (PT)とPTにOccupational Therapy (OT)を併用した2群に分け、認知機能検査、脳波検査、血液検査を入院時と退院前に行うことによって、比較検討したものである。その結果、2群ともに抗酸化力と認知機能にはプラスの効果が示されたものの、脳波解析の結果からニューロンへの作用に差が生じたことが示された。本論文の内容は、リハビリテーションの違いによる高齢者の脳機能への効果を詳細に調査した研究であり、PTにOTを併用することの有用性が示唆され、明らかに学術水準を高めたものと認める。